

仏教説話画の構造と機能 ——此岸と彼岸のイコノロジー——

加須屋 誠(奈良女子大学助教授) 著

A5判上製函入 本文406頁 挿図280点

定価(本体12,000円+税)

著者のことば

人は死の問題に無関心ではいられない。言うまでもなく、それは人は必ず死すべき運命の者であるからにほかならない。しかも、死は普遍的な生理学上の問題であるばかりではなく、時代や地域によって関心の在り方が相違する文化的な問題でもあるに違いない。本書は、わが国古代中世期を生きた人々がいかにこの問いに思いをめぐらしたか——他者の死を哀しみ悼み、また、自己の死を恐れつつも受容したのか——を考察する。

こうした死の問題に対して、今日の人文学はいかなるアプローチが可能だろうか。たとえば仏教学はそれを宗教哲学的立場から考察する。また歴史学は文献史料を中心に歴史的事実のうちにこの問題を見極めようとする。あるいは国文学では古典文学作品の読みを通じてこれを探ろうとするだろう。それに対して、本書は美術史学の観点から死の問題に迫ることを試みる。

(中略) 本書では説話画がかつて果たした実際的な機能に関して、過去の観者の社会的身体的な位相をめぐって、そしてさらに絵画=テキストへと向かう今日の私たち自らが依って立つ解釈学的な前提条件について、慎重な考察をめぐらした。絵画は一方的に時代を映す鏡ではなく、時代のなかで生産／消費されるもの。あるいは時代を超えて解読されるもの。つまり「イメージの交通」がポイントとなる。本書で用いるイコノロジーは、この点において、いうならば「広義の」図像解釈学という意味合いを含んだ方法と捉えられるかもしれない。こうした美術史学の方法の確立とその実践が実は本書の目指すもう一つの研究課題にほかならない。



二河白道図 鎌倉時代 京都・光明寺

ISBN4-8055-0432-3 C3071

中央公論美術出版

<http://www.chukobi.co.jp>

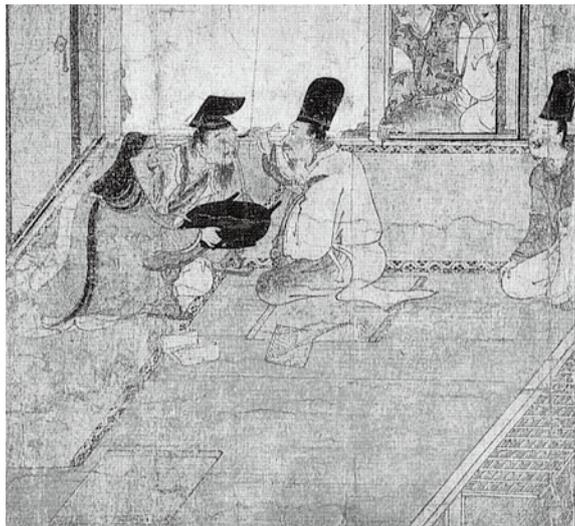
〒104-0031 東京都中央区京橋2-8-7読売中公ビル内
電話 03-3561-5993 FAX 03-3561-5834

お取扱いは

我国古代～中世期の人々の思い描いた現世と他界のイメージを、現存する仏教説話画の図像解釈から探る研究。詳細かつ多数の部分図の写真版に各作品の図様一覧表などの基礎データを提供する俊英の論文集。

目次

- 序章 他界の交通論——本書の目的と方法——
- 第一章 二河白道図試論——その教理的背景と図様構成の問題——
- 第二章 愛知県津島市個人蔵「二河白道図」について
- 第三章 生老病死の図像学——仏教説話画研究序説——
- 第四章 聖衆来迎寺本六道絵「人道不浄相図」考
- 第五章 病草紙研究——「美術史」と「他者」——
- 第六章 「鼻黒の男」とは誰か？——病草紙の世界観——
- 第七章 金戒光明寺所蔵「地獄極楽図屏風」試論——その図様構成と主題の問題——
- 第八章 臨終行儀の美術——儀礼・身体・物語——
- 要旨・初出一覧・雑記／英文要旨／索引



病草紙「眼病治療」図 平安末期 京都国立博物館

著者略歴

加須屋誠(かすや・まこと)

- 1960年 東京都に生まれる
- 1984年 京都大学文学部哲学科卒業
- 1990年 京都大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学
- 1990年 日本学術振興会特別研究員
- 1991年 京都大学文学部哲学科美学美術史専攻第一講座助手
- 1992年 帝塚山学院大学文学部専任講師、同助教授を経て
- 2000年 奈良女子大学文学部助教授、現在に至る

著書

- 『美術史と他者』(共著 2000年 晃洋書房)
- 『地獄と極楽——イメージとしての他界——《国宝と歴史の旅》』(共著 2000年 朝日新聞社)

中央公論美術出版既刊書

日本絵巻物の研究[全二巻]

秋山光和 著 B5判上製函入 (上)本文362頁 カラー4頁 挿図141点 定価(各30,000円+税)
(下)本文388頁 挿図175点

二十世紀後半の日本学・東洋学を領導されてきた秋山博士の広範な研究対象の中から日本古代・中世の絵巻物に関する論考を中心に編集した待望の論文集。
(上)ISBN4-8055-0386-6 C3071 (下)ISBN4-8055-0387-4 C3071

絵仏師の時代[学士院賞・国華賞・メトロポリタン美術館島田賞受賞]

平田 寛 著 B5判上製函入 本文600頁 定価(28,000円+税) ISBN4-8055-0269-X C3071

絵仏師の作品

平田 寛 著 B5判上製函入 本文560頁 定価(25,000円+税) ISBN4-8055-0309-2 C3071